

防災ヘリコプターは 「空飛ぶレスキュー隊」 24時間体制で万が一に備えます



防災航空隊に配備されている「あらかわ」号。機体の色は、青が「荒川」、赤が「消防」、白が「救急」を表しています。

また、阪神・淡路大震災で改めて防災ヘリコプターの有効性が認識されたこと、さらに、安全・確実に活動するために不可欠な機体の点検・整備期間中に出勤できなくなることはないよう、平成8年8月に2機ものないよう、「あらかわ2号」が配備され

また、これから気候もよくなり各地で山開きなどが行われ、行楽の機会も増えると思います。自然を満喫し、楽しむためにも、十分な準備と無理のない計画で、防災航空隊のお世話になることのないようにしなければと、強く感じました。

REPORTER'S EYE



【リポーター】
柿島賢一さん（入間川在住）

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがりポートします。

人々の生命、財産を守るため
日夜訓練に励んでいます

皆さんは埼玉県に防災航空隊という機関があるのをご存知でしょうか。「山火事するとき空から消火したり、山でけがをした人や病気になるた人を救助するヘリコプター」と言うことが分かりやすいですね。全国の都道府県や政令指定都市に設置されている防災航空隊は、埼玉県では比企郡川島町の荒川河川敷に本部を置き、県内の各消防本部から派遣されている隊員以下16名の隊員でその任務にあたっています。今回は、狭山市から派遣されている藤本隊員にお話を伺いました。

埼玉県に防災航空隊が設置されたのは平成3年1月で4月には運航が

開始されました。独特なのは、その運航形態です。全国でも防災ヘリコプターの導入が早かった埼玉県では、機体の配備や運航管理費の負担、防災航空隊の管理・運営を埼玉県が行い、航空隊員を市町村が派遣し、ヘリコプターの操縦、整備、基地施設を民間航空会社が提供するといったもので、全国でも初の試みとして注目されました。現在「埼玉方式」と呼ばれるこの運航形態は、後発の各自自治体で取り入れられているのだそうです。

防災航空隊の任務は、林野火災の消火活動、中高層建物火災の情報収集、高層建物火災や山岳遭難、水難事故などの救助活動、交通遠隔地からの傷病者の救急搬送、災害時の警戒指揮支援や物資・資材・人員の搬送など、広範囲にわたります。もし、狭山市で災害が発生した場合、5分もかからずに到着できるとのことです。そして、そのような緊急時には、高速道路などにも着陸して救助・救出活動を行うのだそうです。

ました。これにより、フォーメーション活動や複数の災害が同時に発生したときの対応が可能になりました。また、隊員、操縦士、整備士が常に待機し、災害がいつ起きても対応できるよう、全国でも数少ない24時間体制をとっていることで、とても安心できました。



地上からヘリコプターに吊り上げられる「要救助者救出訓練」も体験しました。

埼玉県防災航空隊
比企郡川島町出丸下郷53-1